

## 住民主体の防災活動

### 東町3町内会



▲災害に関するクイズを交えながら、防災の講習を受ける参加者

**平** 成25年10月に、季節外れの大雪による停電や道路の寸断などが発生した富良野市。いつ起こるか分からない災害に備えるため、各地域では、住民による防災訓練が積極的に行われています。

3月8日には、東町3町内会（村本芳信会長）が町内会として初めて防災訓練を実施。東春地区コミュニティセンターを避難場所と

し、約50人の町内会会員や行政機関などが集まり、暴風雪による大停電を想定した訓練を行いました。

今回は、事前に役割分担をせず、町内会役員を中心に、当日役割を決める本番さながらの内容で実施。午前10時にラジオふらのから、訓練の放送が流され、センターに避難してきた住民には、それぞれネームプレートの代わりにガムテープに氏名を記入したものを使用。また、自宅待機している高齢者の救援活動も行うなど、それぞれが災害時における行動を確認しました。

「今回の訓練は、災害時に何が必要なのか、不必要なのかを検証するために行いました」と防災を担当する飯沼巖副会長は話します。「赤ちゃんを抱いて来たら、授乳室のようなものが必要になる」など、さまざまな状況を想定した訓練が必要



▲参加者の中には個人で災害時の緊急持出袋や敷物を持参する人も



▲非常食の試食訓練。市よりアルファ米などが提供され、温めなくても食べられるカレーライスを試食する参加者

になると感じたそうです。

また、試食訓練では、今回富良野オムカレー推進協議会より寄付された災害用のレトルトカレーが使用され、参加者は珍しい「温めないカレー」を美味しくそうに試食していました。

「東日本大震災のような状況が起きたとき、地域住民にどう情報を伝えるのか、食糧はどうするのか、水の確保はどうするのかということが検証できた」と話す飯沼副会長。「富良野は災害が起きないと思っている人がたくさんいると思います。災害は忘れたころにやってくるので、自分たちが忘れていきたい」と今後も住民主体の防災活動が積極的に行われます。